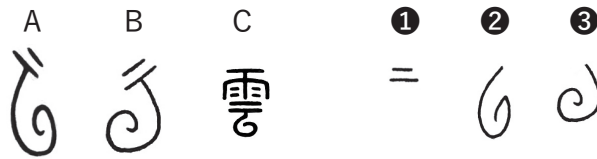


No.1

雲 ウン・くも
会意文字



「雲」は A や B などと表します。

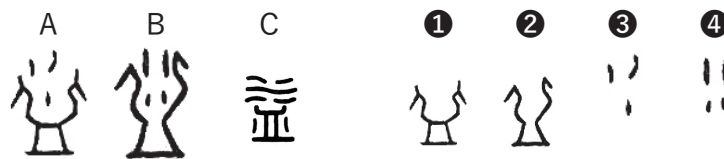
①はセミナーで最初に紹介した「上」の字で上空（空の上の方）を示し、②③は雲（水蒸気）が回転する様子で、空でムクムクと湧き上がっていると考えたのでしょう。後で上に雨冠が付いて C となります。

★書く時のポイント★

雲がムクムクとわき上がるように、最後をくるっと巻きこみます。

No.2

益 エキ・ます
会意文字



「益」は A や B などと書きます。

「皿の中の水があふれ出る様子」を表し、「増す」や「増える」の意味ができました。①②が皿で③④が水です。後で C（上が水で下が皿）となり現在の形に近づいてきます。

★書く時のポイント★

水は皿の中と、上（外）に少し出ている両方を忘れずに。

No.3

企 キ・くわだてる
会意文字



「企」は A や B、C などと書きます。

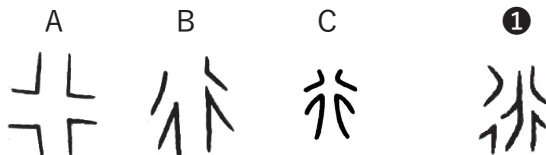
①②③は人を横からみた形、④⑤は左の足跡です（No.6 をみましょう）。人のサイズに比べ足跡が大きく強調されていますが、これは行動的な様子と考えられます。最古の字典には、「企」は「踵をあげる」とあり、つま先立ちして遠くを望む意味があるようです。先を見通して「プランを立てる」または「企画して行動する」などの意味になったのでしょう。後で D となって現在の形に近づきます。

★書く時のポイント★

足跡が小さくならないように気をつけます。

No.4

行 コウ・ギョウ
いく・おこなう
象形文字



「行」は A や B などと書きます。

これは十字路（交差点）を上から見た形で、馬や人が行き交うことから、「行」という文字になりました。①のように十字路の中に人が入る時もあり、また、足跡を入れて「歩」となったりもします（No.8 もみてもみましょう）。そして、C のようになって現在の形に近づいていきます。

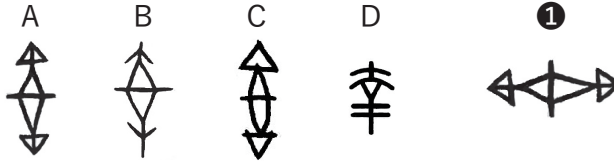
★書く時のポイント★

A だけでなく、B のように色々な十字路がありますので工夫しましょう。

No.5

幸

コウ・しあわせ
象形文字



「幸」はAやB、Cの形に書きます。

これは横にすると①となり、手枷(手錠)の形ではないかと考えられています。なぜこの文字が「しあわせ」を意味する文字となったのかははっきりしていませんが、「手錠から逃げる」「手錠をはめられる罪を解かれる」=「幸せ」と、逆の良い意味に変わっていったのでしょうか。後でDになって現在の形に近づいていきます。

No.6

止

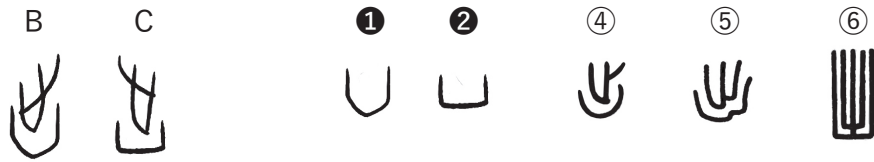
シ・とまる
象形文字



No.7

出

シュツ・でる
会意文字



No.8

歩

ホ・あるく
会意文字



No.9

走

ソウ・はしる
象形文字



「止」はAのように足跡(左足)の形に書きます。「出」はBやCに表しますが、①や②は穴のような住居を指し、そこから足が出ることを意味します。そして、Dのように足跡が縦に二つ並び、上がA(左の足跡)、下が③(右の足跡)と、左右の足が動きだし「歩」になります(Eも「歩」ですが、十字路を歩いているところです)。また、「走」はFに書き、人が左右の腕を振って走っている様子を表します。後でAの形から変化した④が、下に付いてGやHの形になります。

「止」は左の足跡Aから①→②→③と、「出」はBから④→⑤→⑥、「歩」の上は「止」で、下は「止」と左右反対に③→⑦と変化し、そして⑧となり現在の形に近づきます。「走」はG・H→⑨と変化して現在の字形に近づきました。

★書く時のポイント★

「止」は \ → ↓ → ㄣ と書き、最後の ㄣ は親指ですので、小さく書かないように。

「出」は「足が出ていく」ことなので①②から ㄣ ㄣ を半分くらい出すように。

「歩」は左右の足の向きを工夫して、歩くような動きを作ってください。

「走」は走っているように、両腕⑤の矢印部分の長さや曲がり具合を考えましょう。

No.10

至 シュウ・いたる
 会意文字



「至」はAやBなどに書きます。

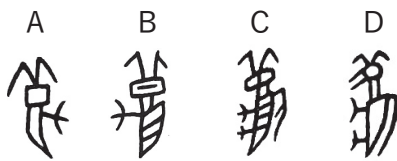
下の①は地面、②は矢の形で、「飛んできた矢③が地面に降り着いた」様子を表し、「至る」の意味となったようです。

★書く時のポイント★

Aのように矢が斜めに土に落ちることもあります。矢が土に着いた様子を大切に。

No.11

秋 シュウ・あき
 象形文字



「秋」はAやB、C、Dなどと書きます。

これは虫の形で、秋になると米や麦などの作物が実りバッタなどの虫がたくさん出てきます。それで秋を虫にイメージしたのでしょう。これらの形から「秋」までの中には「穰」や「𪗇」など色々ありました。

★書く時のポイント★

CやDは羽、Dには嘴のようなものもついています。

No.12

集 シュウ・あつまる
 会意文字



「集」はAやBなどと書きます。

①②は鳥を、③④は木を表します。今でもよく見かけますが、飛んでいた鳥が羽を休めたり、鳥が木にたくさんとまっていたりします。鳥が集まってくることが「集」となったのです。後でCのように3羽がとまった形になり、現在は1羽の形になりました。

★書く時のポイント★

鳥が木にとまっているのか、飛んで来てとまろうとするのか選びましょう。

No.13

春 シュン・はる
 会意文字



「春」はAやBなどと書きます。

①は草、②は木、③④は日(太陽)、⑤⑥は生まれたばかりの草木の葉や芽を表します。大昔の人も、春に太陽の光をいっぱい浴びて、生まれてくる草木を知っていて、その様子を「春」としたのでしょう。現在の「春」の下の「日」は③④が、上の部分は①や⑤などの草木が変化したものです。

★書く時のポイント★

①②や⑤⑥は元気よく。

No.14

純 ジュン
象形文字



「純」ははじめAやB、そしてCやDとなります。

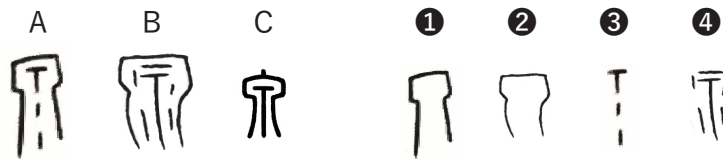
糸偏は後から付きます。A、Bは「春」(No.13)の字にも入っていますが、草木が地上に出たばかりの葉①②や芽③④⑤の形を表すようです。それを「生まれたばかりの無垢な」=「純粋な」という意味に考えたのでしよう。清らかな気持ちは昔も今も同じですね。

★書く時のポイント★

茎にあたるタテ線は元気に、しっかり書きましょう。

No.15

泉 セン・いずみ
象形文字



「泉」はAやBなどに書きます。

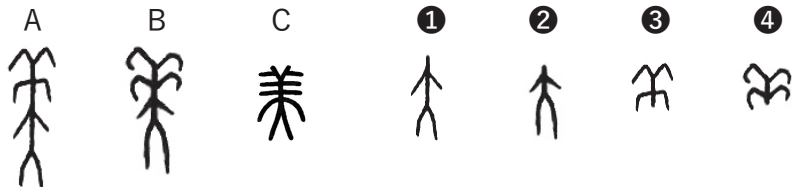
①②は穴やすき間、③④はそこから湧く水を表します。後でCとなり現在の形に近づいてきます。最古の字典には、「泉」は水源の意味で、水が流れ出し、川になる形を表すとあります。

★書く時のポイント★

水が生まれてくる感じを出しましょう。

No.16

美 ビ・うつくしい
象形文字



「美」はAやBなどに書きます。

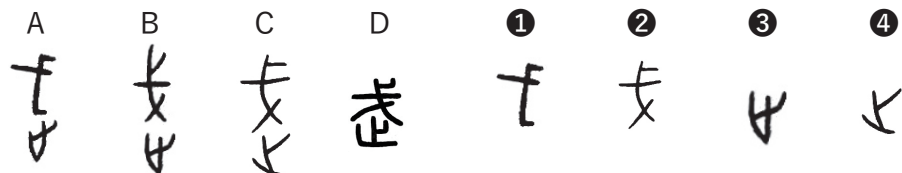
①②は人の正面の姿を表し、③④は頭の上に羽毛や簪などの髪飾り(装飾品)をつけている形だといいます。今でも、ヘアスタイルを整えたり髪飾りをつけますね。大昔の人と気持ちは変わらないのでしよう。後でCとなり現在の形に近づきました。

★書く時のポイント★

自分ならどんな髪型や髪飾りをつけたいか、想像しながら書いてみましょう。

No.17

武 ブ・たけ
会意文字



「武」はAやB、Cなどに書きます。

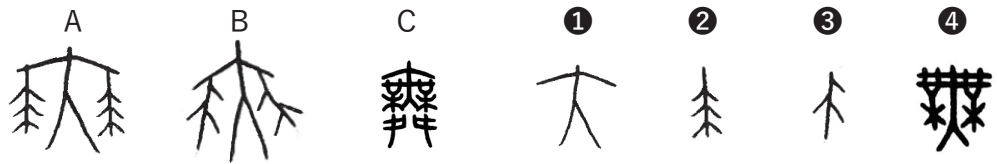
①②は戈(武器)、③④は左の足跡を表し、「武器を揮って(動かして)前に進む」という意味になります。これが「勇」や「健」の意味にも関係するようです。後でDとなって現在の形に近づきます。

★書く時のポイント★

①や②の向きを少し変えることで様子が違ってきます。

No.18

舞 ブ・まう
象形文字



「舞」は A や B などと表し、「人が両手に物を持って舞う姿」を意味します。

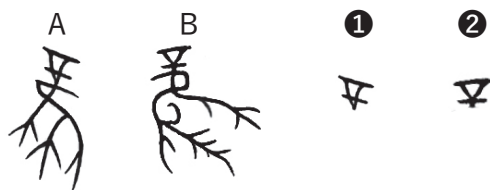
①は人を正面から見た形、手に持つ②や③がどんなものだったかははっきりしません。もしかしたら、袖を振り回していたのかも。この字は雨乞いの話によく出てくるのでお祈りする姿かもしれません。そして、A や B は④の形になり、後で足を意味する「舛」が下に付いて C となり現在の形に近づきました。

★書く時のポイント★

左右で手足の長さを変えたり、曲線を入れたりすると動きが出てきます。

No.19

風 フウ・かぜ
象形文字



「風」は A や B などに書きます。

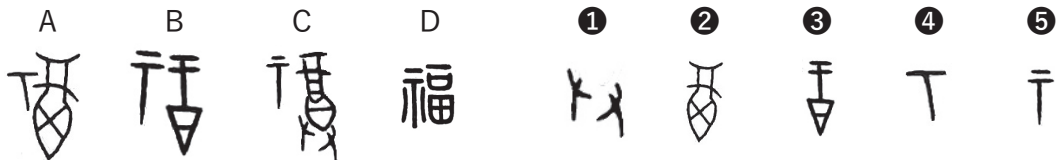
この形は神鳥とされる「鳳」を表し、頭の上にある①②は冠を意味し普通の鳥と区別します。鳳は空の王者ですから、大昔の人は、鳳が羽ばたくことで風が起ると思っていたようです。鳳があちらこちらにすばやく飛んで行って、小さく、大きく、早く、遅く、様々な羽ばたきをすると、それがそよ風・強い風・台風など色々な風になったのでしょうか。大昔の人は色々な風が吹く度に、鳳の羽ばたく姿を思い浮かべたのでしょうか。

★書く時のポイント★

飛んでいるように書きましょう。

No.20

福 フク
会意文字



「福」は A や B、C などと書きます。C のように下に①両手を付ける（捧げる）こともあります。

②③は酒壺（お酒の入った容器）を表し、「示」の④⑤は祭壇を意味します。祭壇にお酒を供え、神様にお祈りすることで、幸福をお祈りしたと考えられ、「福」という字になったのでしょうか。後で D となって現在の形に近づきました。

★書く時のポイント★

④⑤をあまり大きく書かないこと。

No.21

並 ヘイ・なみ
象形文字



「並」は A や B などと書きます。

①②は正面を向いている人で、下の③④は場所（地面など）、二人の人間が並んで立っている様子を、この意味にしたようです。後に C となり、そして両方の手と2つの場所がつながって、現在の形に近づいていきました。

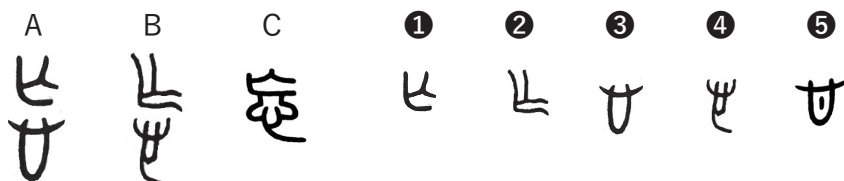
★書く時のポイント★

どちらの人も同じように正面を向くようにします。

No.22

忘

ボウ・わすれる
 会意文字



「忘」はAやBなどと書きます。

①②が「亡」で、「なくなる」「逃げる」などの意味があり、③④は心を表します。心からなくなることを「忘れる」と考えたのでしょう。後でCとなり現在の形に近づいてきます。

★書く時のポイント★

③の中心に短い線を入れて⑤のようにしてもかまいません。

No.23

明

メイ・あかるい
 会意文字



「明」はAやB、C、Dなどに書きます。

①②③は月を、④は日（太陽）、⑤⑥は窓を表します。①と④はどちらも明るいもの、②③と⑤⑥は窓から月明かりが入って明るい様子を意味します。大昔の人は「明るい」にも色々あると思ったのでしょね。後でEと表し月明かりを、現在は日と月になりました。

★書く時のポイント★

窓から入る月明かりは少し斜めでもいいかもしれません。

No.24

令

レイ
 会意文字



令和の「令」はAやBなどと書きます。




①は鈴や帽子の形で、②は人が横向きに跪いて、号令やお告げを受ける様子を表すようです。Cにも表しますが、現在の令の字形に近づきます。

★書く時のポイント★



頭の部分を少し膨らませ、手が足にちょっと触れているようにします。そして、人がかがんで、ものを聞いている様子が見えるように書きましょう。

保護者の方・一般の方々へ

◇古代文字は通常「篆書」という書体で書かれた文字を指しますが、歴史的に中国の殷時代～周（春秋・戦国）～秦の文字統一を経て漢時代まで千年以上使われます。今回のセミナーでは、作品化する文字は、教育漢字を主に、絵的でわかりやすい象形・会意文字の中から興味深いものを選びました。それは時代的にいうと殷～周時代であり、当時の文字である甲骨文（亀の甲羅や獣骨に刻まれた文字）や金文（青銅器に鑄込まれた文字）となります。そのためセミナーで呼んでいる古代文字は、その2種を指すことがほとんどです。

◇「甲骨文」や「金文」は、一つの文字を左右対称（シンメトリー）に表す場合が多く、どちらもその文字を表します。例えば、No.1の「雲」は現在Aの形を使っていますが、当時はAとBのどちらも雲ということになります。またNo.7「出」も同じように現在はBの形が「出」になっていますが、当時はB（左の足跡）C（右の足跡）のどちらでもいいことになります。なお、現在の「止」（止まる）の形は左の足跡から変化したものですが、甲骨文の時代は、シンメトリーになる右の足跡でも「止まる」を表しました。即ち左右一方の足跡が一つの場合＝「止まる」ということです。ここではNo.6・8・9に共通しており、混乱をさけるためA（左の足跡）だけの表記としました。また、（止）はNo.3「企」、No.7「出」、No.17「武」のように、「止まる」とは反対の行動的な意味をもつこともあります。

◇甲骨文は発見されて120年ほどしか経っておらず、今も全容が解明されず研究の途中です。そのため古代文字は研究者の中で見解を異にする場合があります。また、専門的な表現も多く、ここで紹介するものは、小学校高学年にもわかるように簡略化している場合がありますのでご了承下さい。

◇動画における漢字の生まれ方については、『説文解字』（後漢時代の字典）にあげている「六書」をもとにしています。「六書」とは①象形・②指事・③会意・④形声・⑤転注・⑥仮借のことで、①～④は作り方、④⑤は用い方を示しており、動画の中では簡単に前者4つを紹介しました。その中で、「象形」が物の形（の特徴）を筆画で表すのに対し、「指事」は一定の筆画を付け加えてそれを基として物と物の関係性（の特徴）を形に表すものです。例えば、湾曲した長い線の上に短い線がある状態を「上」、下にある状態を「下」と抽象的なものを形にしたり、数字のように横画が1本で「一」、4本で「四」を表したりします。しかし、この「指事」をごく簡単に説明することができないため、具体的なものが見えないということから「はっきりしないものを形にする」と表現していますのでご了解ください。

◇各文字には、音読みと訓読みを表示し（音が複数ある場合は代表的なものを選ぶ）、象形文字か会意文字かがわかるようにしました。

◇順番は音読みでの50音順を原則としていますが、No.6～9は関連性があるのでまとめて掲示しておりその限りではありません。

◇このダウンロード資料は川崎市市民ミュージアムと日野楠雄に著作権があります。取り上げた字形を作品に使用していただくことは問題ありませんが、断りなく文面をそのまま二次利用することはお控えください。